

明和元年  
大坂  
新開  
第十八号

可辨親の我儘可嗜の子の氣儘  
 亥小西大組第十區立賣堀北通六丁目  
 大原大治郎が娘あつたとき十七歳ありふりも  
 識しき氣質なりぬほおこころは養家の家と  
 常々若くして多に中もよき縁談と  
 或る日おとくおの父大治郎お説くは  
 息娘と嫁ふたまふ縁者とあて

何分あるは此縁と嫌ひて父の言葉は  
 さむらひての事満をいふ思案とさめて先づ背分へ各分と強て押付親権感ふ  
 西成郡第三區四番組光寺村京谷嘉兵衛方へを遣り何  
 とおくいお持交ぬ家も親の威おでんくもあつておるおこり  
 京谷合命と推んとし五日の家出て行へし跡嘉兵衛  
 へこの家の家内一統八方へ人おしりし事一か五日の明けか  
 新川と橋南詰の川岸お平常見馴し下駄ありしへ其川下と  
 探索し中津川小嶋新田字堤塚と云ふ所おあつた死體を首

史引おけて介抱おせども其甲斐色  
 とや實子歎くへさことあつたや  
 略説再圖  
 笠木芳瀧



阿波文板

